

デジタル情報通信革命 愛称:0101(ゼロイチゼロイチ) 最近の運用状況と今後の見通しについて

2016年12月14日

平素は、「デジタル情報通信革命 愛称:0101(ゼロイチゼロイチ)」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
当ファンドの最近の運用状況と今後の見通しについて、お知らせいたします。

《基準価額・純資産の推移》

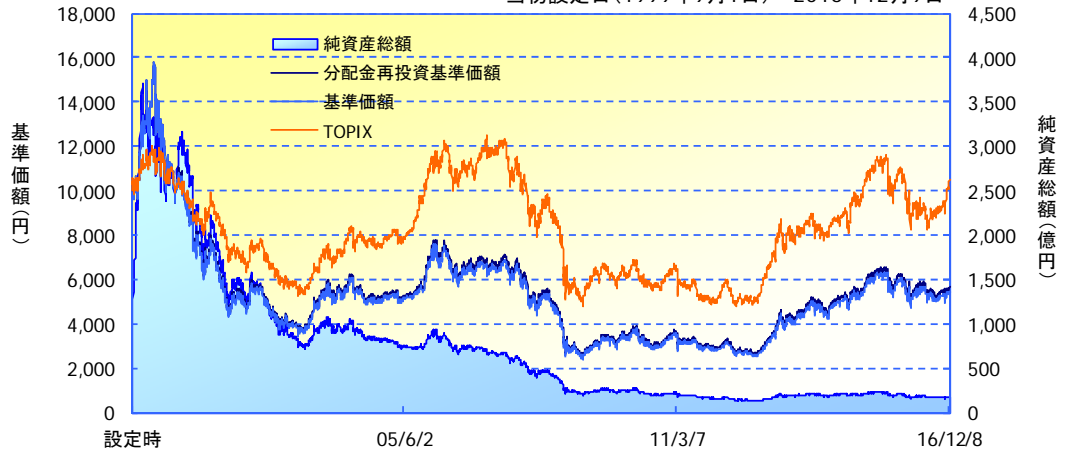
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2016年12月9日現在

基準価額	5,440 円
純資産総額	175億円
TOPIX	1,525.36

期間別騰落率

期間	ファンド	TOPIX
1か月間	+9.5 %	+17.2 %
3か月間	+5.7 %	+13.5 %
6か月間	-3.0 %	+14.1 %
1年間	-7.3 %	-1.9 %
3年間	+14.2 %	+21.5 %
5年間	+90.3 %	+106.7 %
年初来	-7.4 %	-1.4 %
設定来	-43.7 %	+4.7 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※TOPIX(東証株価指数)は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考のため掲載しています。

※グラフ上のTOPIXは、グラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《主要な資産の状況》

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成			株式業種別構成	
資産	銘柄数	比率	東証33業種名	比率
国内株式	68	97.7%	電気機器	30.5%
国内株式先物	---	---	情報・通信業	22.4%
不動産投資信託等	---	---	機械	12.6%
コール・ローン、その他	---	2.3%	建設業	6.3%
合計	68	100.0%	その他製品	4.4%
株式市場・上場別構成	合計97.7%		化学	4.1%
一部(東証・名証)	---	94.5%	輸送用機器	3.3%
二部(東証・名証)	---	---	サービス業	2.9%
新興市場他	---	3.2%	海運業	2.3%
その他	---	---	その他	8.8%

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額を分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

当ファンドのパフォーマンスは7月以降、参考指数であるTOPIX（東証株価指数）に対して劣後しております。その理由につきましてご説明いたします。

＜投資環境＞

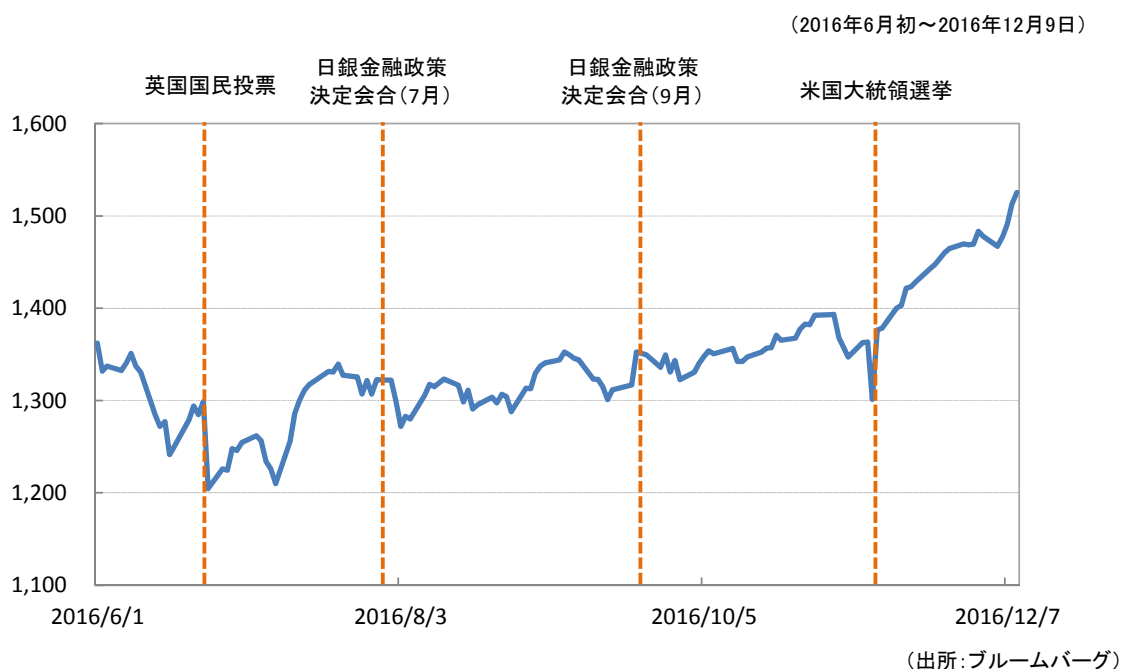
6月の国内株式市場は、日銀金融政策決定会合で追加緩和が見送られたことや、英国の国民投票で予想外にEU（欧州連合）離脱派が多数となったことで、円高の進行とあいまって下落しました。しかし7月の国内株式市場は、米国の雇用統計が市場予想を上回る良好な内容であったことや、安倍政権による大型経済対策に対する期待の高まりなどから金融セクターや輸出関連セクターを中心に反発に転じました。7月末の日銀金融政策決定会合では、ETFの買い増しとともに、次回に行われる9月の金融政策決定会合で「金融政策の総括的な検証」を実施する旨が発表されたことで、金融政策が見直されるとの観測が浮上して国内長期金利が（マイナス幅が縮小する形で）急上昇しました。この結果、8月の国内株式市場は全体として小動きながら、金融株や輸出関連セクターが上昇しました。

その9月の金融政策決定会合で、日銀は金融緩和の目安を買い入れ資産の量から金利へ変更し、10年金利水準をゼロ%近辺で推移させる「イールドカーブ・コントロール」の政策目標を新たに導入しました。

10月には、米国の良好な経済指標の発表を受けて円安米ドル高が進行、国内と中国の底堅い経済指標の発表などが好感され、株式市場は上昇しました。

11月には、米国大統領選挙において、予想外のトランプ氏の勝利という結果に対し、初日こそ国内株式市場は急落しましたが、翌日以降、インフラ（社会基盤）投資や減税による米国景気加速期待が強まり、欧米株式市場の反発とともに急上昇しました。米国長期金利が急上昇すると同時に急速に円安も進行しており、金融市場では長年続いたデフインフレからインフレへの転換期待が高まっていると推察されます。

株価(TOPIX)の推移



＜運用状況＞

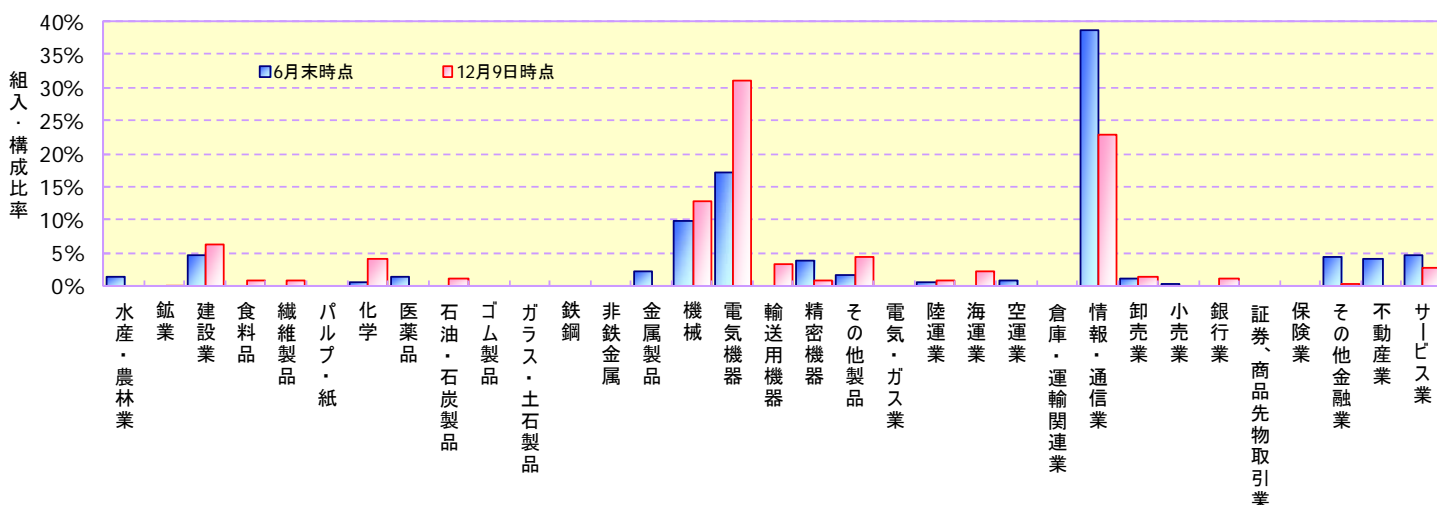
当ファンドは、情報通信機器の製造、情報関連サービス、情報ソフト、通信・放送などに関連する事業を営む企業およびこれらを利用することによって経営の効率化が図られると期待される企業の中から銘柄の選定を行うという特色があります。そのため、TOPIXと比較して銀行業や輸送用機器などの組入比率が低いという特徴があります。また、当ファンドでは、社内アナリストのボトムアップリサーチを活用した中小型銘柄への投資をリターン源泉として重要視しています。

当ファンドの過去6カ月間の運用実績は参考指数のTOPIXを下回っており、特に、7月以降の運用実績の不振が大きく影響しています。

7月の国内株式市場は、参議院選挙での与党の勝利、安倍首相の経済対策策定指示、ヘリコプター・マネーに関する思惑の台頭、米国の早期利上げ観測を背景に円安米ドル高が進んだことなどから、相場が大きく上昇しました。しかし、相場の上昇をけん引したのは、金融関連や資源関連など、これまで株価が出遅れていた大型バリュー銘柄が中心であり、当ファンドの組入比率が高い電気機器セクターを中心とした中小型グロース銘柄のパフォーマンスは大きく劣後しました。そのため、相場の物色が変化したことに対応し、電気機器セクターを中心として、これまで株価が割安に放置されてきた出遅れ銘柄の買い付けを行い、バリュー銘柄のウエートを引き上げました。

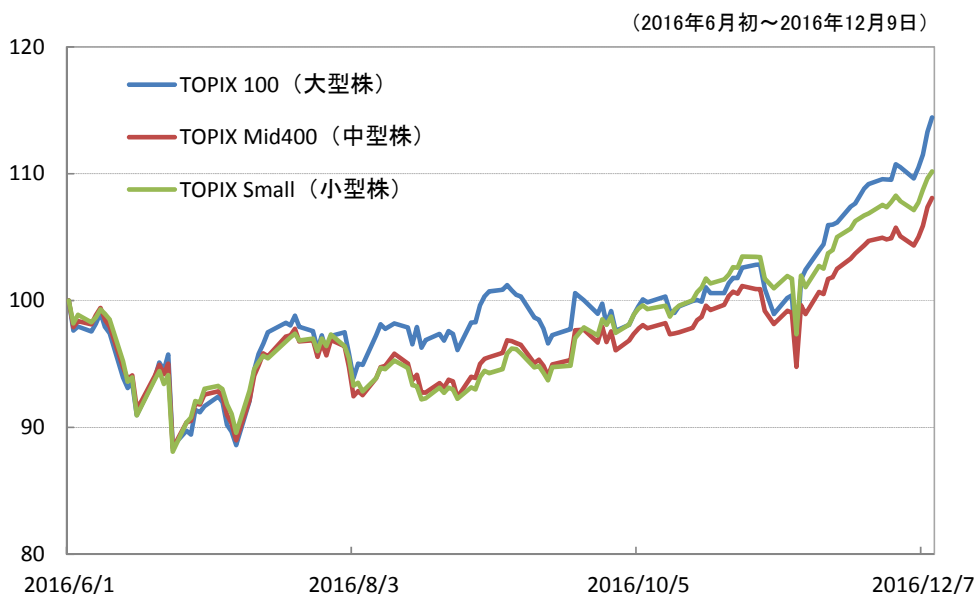
また、11月の米国大統領選挙でトランプ氏が勝利したことで、インフラ投資や減税による米国景気加速期待が強まり、米国長期金利が上昇し、大幅に円安米ドル高が進行したことなどから、相場が大きく上昇しました。米国金利上昇による恩恵が期待される金融関連や、円安米ドル高による業績改善が期待される輸送用機器や電気機器などの外需関連など、特に大型銘柄が中心となって相場上昇をけん引しました。そのため、当ファンドの特徴である銀行業や輸送用機器などの組入比率が低いという点に加え、中小型銘柄の組入比率が高いという点が、TOPIXに対してパフォーマンスが劣後する要因になりました。

株式ポートフォリオの業種別構成の変化



※比率は、株式ポートフォリオに対するものです。

株価の推移(規模別)



※グラフの起点時を100として指数化しています。

(出所:ブルームバーグ)

＜今後の見通し・運用方針＞

国内株式市場の見通しは、短期的には米国大統領選挙後の急速な株価上昇の反動などが想定されますが、中期的には、米国景気の加速期待や円高懸念の後退、国内企業の来年度の業績改善への期待、日銀によるETF購入などで、堅調な推移が続くと想定しています。米国新政権によるインフラ投資拡大や減税などへの期待は中期的な株価押し上げ要因になると思われませんが、期待外れになるリスクもあると考えるため、具体的な政策を注意深く見極めてまいります。

当ファンドの、リターンの源泉はボトムアップリサーチによる中小型銘柄への投資にある、という考え方に変化は無く、割安な中小型銘柄を発掘しパフォーマンスの向上を目指すという方針に変更はありません。内需関連をはじめとして中小型銘柄の多くは足元で物色の対象外となっていますが、中長期的な成長期待が高いにも関わらず、株価が大きく下落したことでバリュエーション面の割安感が強くなった銘柄もあるため、絶好の投資機会として買い増しを進め、中長期でのパフォーマンス向上に努めます。

ただし、米国大統領選挙でのトランプ氏勝利による相場環境の変化は大きく、米国長期金利上昇や円安米ドル高が当面続き、大型バリュエーション相場が中期的に継続する可能性もあると考えています。そのため、バリュエーションが割高な銘柄を売却し、電気機器セクターを中心とした大型バリュエーション銘柄へのシフトも同時に行うことで、大型バリュエーション相場への対応を行ってまいります。

以上

デジタル情報通信革命 愛称:0101(ゼロイチゼロイチ)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- わが国の株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

- わが国の株式の中から、次世代の情報・デジタル通信・マルチメディア等に関連する銘柄に投資します。
 - ・下記に関連する事業を営む企業およびこれらを利用することによって経営の効率化が図られると期待される企業の中から、銘柄の選定を行ないます。
情報通信機器、情報関連サービス、情報ソフト、通信・放送等（見直しを行なうことがあります。）
 - ・銘柄ごとの投資額、銘柄入替えのタイミング等は、投資環境に応じて決定します。
- ※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限>3.24%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.6416% (税抜 1.52%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期間の最初の6か月終了日（休業日の場合翌営業日）および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」に記載しています。

販売会社:

大和証券

Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会